



久米南町上粳地区

里山創生フォーラム

satoyama creation forum

開催報告書

平成29年3月

上粳みろく農場協議会

目次

●目次	1P
●はじめに	2P
●開催概要・イベント次第	3P
●開催報告(開場)	4P
● // (開会)	5~6P
● // (第1部)	7P
● // (第2部 うらじゃ・ファシリテーター)	8P
● // (第2部 パネリスト)	9P
● // (会場の様子)	10P
● // (抽選会・閉会)	11P
●来場者インタビュー	12P
●メディア掲載	13P

はじめに

上糶みろく農場協議会は、平成26年9月に初めての県内外からの農業体験の参加者を募り、反響が大きかったこともあり、交流事業を推進するために、上糶みろく農場協議会を設立しました。

そして平成27年度に、都市農村共生交流総合対策交付金事業(中国四国農政局)の認定を受け、専門家を交えながら、様々な可能性を見出す事業を推進してきました。

今回のフォーラムは、その締めくくりとして、本年度から上糶地区に活動拠点を移すカイルご夫妻をはじめとした、全国各地で活躍されているふるさと創生のスペシャリストに来ていただき、「農村保全」「産業振興」「移住促進」の3つの側面から外部ネットワークとの連携や活動促進の協力支援が生まれることを目的に開催いたしました。

平成29年 3月

上糶みろく農場協議会



上糶みろく農場協議会ホームページより抜粋 (URL:<http://kamimomi369.jp/>)

開催概要

- 名称 久米南町上粩地区 里山創生フォーラム
～久米南町上粩地区から発信する「里山創生プロジェクト」始動～
- 日時 平成29年3月5日(日) 12:30～開始(開場12:00)
- 会場 久米南町公民館 竜山支館(もむらふれあい交流館)
- 住所 岡山県久米郡久米南町中粩318-3
- 主催 上粩みろく農場協議会
(平成27年度 都市農村共生交流総合対策交付金事業)
- 後援: 久米南町
- 協賛協力 (株)パソナ岡山,道の駅くめなん

イベント次第(進行表)

12:00	開場
12:30	オープニングアクト:獅子舞演舞(倉敷芸能塾)
12:50	主催者挨拶:上粩みろく農場協議会 会長 杉本 光正 【第1部】パーマカルチャーによる上粩地区創生チャレンジ テーマ:「How to make community 上粩in Premaculture way」 後援者:カイル・ホルツヒューター(木和土 代表) 五十嵐 武志・ひろこ(五十野園 代表)
13:50	休憩
14:00	うらじゃ演舞パフォーマンス(岡山うらじゃ連 鬼縁、他)
14:15	【第2部】全国ふるさと創生に取り組む活動家からの報告と提案 テーマ:「上粩地区から生まれる里山創生事業の可能性」 ファシリテーター:シキタ 純(NPO法人ビーグッドカフェ 代表理事) パネリスト:里山保全の専門家...林 良樹(NPO法人うず理事長) オーガニック農業の専門家...梶谷 譲(梶谷農園 代表) 有機農業の専門家...坂本 重夫(広島有機農業研究会 代表) コミュニティづくりの専門家...石原 達也(岡山NPOセンター 副代表理事)
16:00	抽選会
16:20	閉会

開催報告(開場)



久米南町公民館 竜山支館（もむらふれあい交流館）

山間の体育館を利用して開催され、県内外から大勢の方にお集まりいただきました。



入口看板



入場の様子



受付の様子

会場までの道に案内看板を設置しました。また、会場においても、車の誘導や受付など、地元の方にスタッフとしてご協力頂き来場者の方にスムーズにご入場いただけました。

開催報告(開会)



来場者数：約180人

子供から高齢者まで幅広い年齢層の方(約180名の)にお集まりいただきました。遠方は愛媛県からなど、前日から泊まり込みでの参加者も居るなど、盛況につき、増席対応しての開催となりました。

○ オープニングアクトによる獅子舞演舞



倉敷芸能塾による獅子舞演舞では、お囃子と太鼓にあわせてダイナミックな演舞が披露され、演舞の後には、無病息災を願って獅子舞が会場内を回り、会場を和ませました。



開会式（主催者挨拶）



司会進行 貝阿彌敏美
(上粕みろく農場協議会 プロジェクト責任者)



司会者より、本フォーラム開催の経緯と趣旨の説明の後、
上粕みろく農場協議会の保全活動・事業調査・セミナー開催・ワークショップなどの、
今までの活動の紹介などが行われました。

～杉本会長ご挨拶～

上粕は小さな村でございます。八十数名の皆さんが生活しております。
そういった中で、我々なんとか過疎の村を立て直していこうと脱皮し、
少しでも昔のような楽しい村が取り戻せたらなと思ひながら、頑張っております。
一日、有意義なフォーラムにしていきたいと思っておりますので、
どうぞよろしくお願いいたします。



上粕みろく農場協議会
会長 杉本 光正

テーマ:「How to make community 上靱 in Premaculture way」



講演者:カイル・ホルツヒューター、和子ご夫妻(木和土代表)



Profile(プロフィール)

1977年ウィスコンシン州生まれ、アイオワ州立大学を卒業後、2003年にパーマカルチャー・デザインとエコビレッジ・デザインを学ぶ。2006年、ペンシルバニア州立大学大学院博士前期課程を終了し、2011年に日本大学大学院博士後期課程を終了(日本におけるストローベイル建築の温室環境と壁内湿気対策を研究)。「楽しい」「美味しい」「美しい」「自分らしい」を自身の原理とし、現在、世界各地でパーマカルチャー、ストローベイル建築のワークショップ指導などを担当している。

持続可能な農業や社会、暮らしの創造」を、実践を伴う総合的な哲学・学問であるパーマカルチャーの原理や要素についてのプレゼンを行った後、里山再生の課題に対してのパーマカルチャーの挑戦として、上靱に設立を計画中のパーマカルチャーセンターの活動計画を中心に説明した。

また、農村保全・棚田保全の観点から「オーナー制度」の導入も提案。わらのブロックを積んで家を建てる「ストローベイルハウス」の講座の開講や、エディブル教育の導入による里山再生の担い手育成への挑戦など、上靱地区においての里山再生のための具体的な提案には、参加者も熱心に耳を傾けていました。



講演者:五十嵐武志、ひろご夫妻(五十野園代表)



Profile(プロフィール)

農業や化学肥料を使わずお米を生産する不耕起栽培の第一人者。千葉・南房総にて、「耕さず、農薬・肥料や除草剤を使わない」方法でお米づくりを実践しつつ、「耕さない田んぼクラス」を定期的開催している。

冬季湛水不耕起移植栽培を中心に説明。棚田百選に選ばれた上靱の棚田においての里山再生の一步として上靱みろく農場協議会と「耕さない勉強会」を今年開催予定も告知されました。

開催報告(第2部:うらじゃ演舞 / ファシリテーター)

第2部の前には、会場全体を使って、岡山うらじゃ連 鬼縁 他による「うらじゃ演舞パフォーマンス」が行われ、パフォーマー・フォーラム参加者・スタッフみんな会場が一体となって盛り上がりました。



第二部・活動報告とディスカッション

テーマ:「上糶地区から生まれる里山創生事業の可能性」

第2部のファシリテーターであるシキタ氏の進行により、各パネリストによる活動報告が行われ、「上糶活性化の中核チームをどのようにするか」「魅力的な地域にするためには」など専門家によるディスカッションが行われ、住民からの活性化や農業に関する質問にも、各分野の専門からアドバイスをいただきました。



ファシリテーター

NPO法人ビーグッドカフェ 代表理事

シキタ 純 氏

開催報告(第2部 パネリスト)



林 良樹 氏 NPO法人うず 理事長

千葉・鴨川を拠点とし、里山全体を価値ある社会の共有財産として保全するため、無印良品くらしの良品研究所と共に「鴨川里山トラスト」を行う里山保全活動家。棚田百選にも選ばれた大山千枚田のオーナー制度を成功に導くまでの経緯や、現在大学や企業と連携して取り組んでいることなど、具体例を挙げて説明し、上叡での里山再生の可能性についても語った。



坂本 重夫 氏 広島県有機農業研究会 代表

お米作り・野菜作り・鶏を結びつけて、自然循環し、それぞれを有機的に結びつけた農業スタイル。これから有機農業を目指す若い農家さんからのよき相談役を務める。1991年から、2haの山林を開墾し、畑、果樹園を開き、鶏舎を建て、自然エネルギーによるエネルギーの自給も模索していくなかの経験や有機農業を行う上での困難など、実体験を交えて解説した。



梶谷 譲 氏 梶谷農園 代表

広島県三原市で葉野菜とハーブに特化した梶谷農園を経営し、全国の有名レストランへ卸している。国内のみならず、世界のガストロノミーと直に繋がる。農業家になるまでの経緯や、農業をする上で必要なこととして、「農家的発想ではなく、料理人が何を求めていかを考えて生産・出荷する」視点の大切さを説いた。また、様々なアイデアは農業することの楽しみから生まれると語る。



石原 達也 氏 岡山NPOセンター 副代表理事

ボランティア・NPO・地域活動・社会事業などの経営支援全般に携わっている。里山などの過疎地域が抱える問題を提起した上で、岡山県内の地域活性化に取り組んでいる地域を実例にあげて、地域活性する人たちと地元の人、移住してくる人との関わりについて、どんな対応が必要かなど客観的立場から具体的なアドバイスをした。

開催報告(会場の様子)



皆さん、メモを取ったり
うなずきながら、熱心に専門家の
皆さんの話を聞いていました。



開催報告(抽選会)

(株)パソナ岡山様、道の駅くめなん様に協賛協力を頂き、
会長 杉本光正、副会長 山本博司、監査役 森尾賢治による厳正なる抽選のうえ、商品の
引き換えが行われました。



- 1等...道の駅くめなん お食事券と全商品(10名様)
- 2等...道の駅くめなん 特産品の詰合せセット(5名様)
- 3等...(株)パソナ岡山様 パソナ農園隊オリジナルドレス(15名様)

開催報告(閉会)



～閉会ご挨拶～

私たちの住んでおりますこの地域の活性化は、
高齢者も増えて、農地も荒れているところござ
います。これをいかに再生するかということで
国内外の先生方のご指導を仰ぎながら
これから進めて参りたいと思っております。

その成果が皆様方に半年先か、一年先に必ず
ご報告が出来ますよう
力を合わせてみんなで頑張っていきたいと思っ
ております。

上粕みろく農場協議会 副会長 山本博司

質問：フォーラムに参加してみて、どう思ったか？



愛媛からの参加者

お友達の紹介で、
里山を活かして地域で
頑張っているフォーラムがあるから
一緒に行かないかということで来ました。

自分の住んでる地域が
笑顔があふれる田舎に
なったらいいなと思います。



うらじゃパフォーマー

若い人の人口流出というのが今
問題ですので
こういった後援会とかがあり
色んな方が興味を持たれて

どんどん人の流れができていくというのが
とても素晴らしいと思いました。

質問：外国の人や都会の人がこの地に移り住むことをどう思うか？



杉本会長

別に何も無いよ。むしろ英語が喋れて勉強
になるかもしれない。

今はすべてにおいて、「外国だ」「日本だ」と
言っている時代ではない。

一緒になって、色々楽しくやりたいなと思っ
ました。
良い勉強になりました。

久米南で移住予定の米国人が講演 里山創生テーマにフォーラム



岡山県久米南町上粕地区の住民有志が地域の豊かな里山資源を維持、回復させながら持続可能な農業、暮らしを目指す「里山創生プロジェクト」をスタートするのに合わせ、そのキックオフイベントのフォーラムが5日、同町中粕の同町公民館亀山支館で開かれた。県内外で活動を実践する人たちが集まり、取り組みの紹介や意見交換を通じてプロジェクトへの意識を高めた。

地域住民らでつくり、里山資源の維持回復に取り組む「上粕みろく農場協議会」が主催。県内外の180人が聴講した。

今月下旬から上粕地区への移住を予定している米国人のカイル・ホルツヒューターさん（39）＝広島市＝が講演。ホルツヒューターさんは「パーマカルチャー」と呼ばれる手法で、環境に配慮し、人と自然がともに豊かになる生き方を模索しており、地域の木材や資源を活用した住宅建築などを手掛けている。

ホルツヒューターさんは移住後の活動計画を中心に説明した。自宅兼拠点として「パーマカルチャー・センター」を建設するほか、農村保全や移住促進を展開するとした。

日本の棚田百選にも選ばれている棚田を守るため、休耕地を貸し出して米作りを楽しんでもらう「オーナー制度」の導入も提案。わらのブロックを積んで家を建てる「ストローベイルハウス」の講座を開いたり、できた家は観光客や移住希望者の民宿に活用したりする案も紹介し「興味のある人は声を掛けてほしい。一緒に取り組みましょう」と訴えた。

このほか、農薬や化学肥料を使わない上、耕さない不耕起栽培で米を生産している千葉県の実験農家や里山保全を手掛けるNPO法人代表者らの実践報告や古里創生への提言などもあった。

(2017年03月06日 17時17分 更新)

カテゴリ：久米南町 地域の話 岡山へ移住



久米南町上粕地区の里山創生をテーマに開かれたフォーラム

山陽新聞と津山朝日新聞に掲載されました。